

## 科 目 名

# 医薬品安全性学 Medicinal Safety Management

4年 通年前期 3単位 必修

瀬尾 量 (医療薬剤学研究室)  
森内 宏志 (臨床薬学研究室)

## 概 要

### 【瀬尾】

各疾患領域の病態生理と薬物治療法について学ぶとともに、ここでは安全で有効な薬物療法の責任を担うべく、有害事象や毒性に関する知識も身につける。

### 【森内】

教科書を中心に精神、耳鼻咽喉、および眼科系の疾患を学び、国試問題を基本とした英語問題で演習を行い、学習したことを確実に身につけ、国試問題の解答能力と同時に医学英語を習得していく。

## 授業計画

### 【森内：前期（第1クォータ）】

- 1) 精神疾患  
統合失調症、うつ病、神経症、心身症、薬物依存症、アルコール依存症
- 2) 耳鼻咽喉疾患  
めまい、メニエール病、アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎
- 3) 眼疾患  
緑内障、白内障、結膜炎、網膜症

### 【瀬尾：前期（第2クォータ）】

- 1) 皮膚疾患（アトピー性皮膚炎、皮膚真菌症、蕁麻疹、薬疹、水疱症、乾癬、接触皮膚炎、光線過敏症）
- 2) 骨・関節の疾患（骨粗しょう症、関節リウマチ、変形性関節症、骨軟化症）
- 3) アレルギー・免疫疾患（アナフィラキシーショック、全身性エリテマトーデス、後天性免疫不全症）
- 4) 移植医療
- 5) 緩和ケアと長期療養（癌性疼痛）

## 到達目標

### 【森内】

- ・精神疾患〈C14(4)-1〉
  - 1) 代表的な精神疾患を挙げることができる。
  - 2) 統合失調症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
  - 3) うつ病、躁うつ病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
  - 4) 以下の疾患を概説できる。  
神経症、心身症、薬物依存症、アルコール依存症
- ・耳鼻咽喉の疾患〈C14(4)-2〉
  - 1) 耳鼻咽喉に関する代表的な疾患を挙げることができる。
  - 2) めまいの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
  - 3) 以下の疾患を概説できる。  
メニエール病、アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎
- ・眼疾患〈C14(4)-4〉
  - 1) 眼に関する代表的な疾患を挙げることができる。
  - 2) 緑内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
  - 3) 白内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
  - 4) 以下の疾患を概説できる。  
結膜炎、網膜症

### 【瀬尾】

〈C14(4)-3,5~8〉

将来、適切な薬物治療に貢献できるようになるために、上記、疾患およびそれらの治療に用いられる代表的な医薬品に関する基本的知識を習得する。併せて、薬物治療実施に必要な情報を自ら収集するための基本的技能を身につける。

## 授業形式

【森内】教科書を中心に授業を進め、英語の国試問題で演習を行う。

【瀬尾】教科書及び視聴覚機材を用いた講義を行なう。適宜、資料を配布する。

## 評価方法

【森内】定期試験、授業への参加態度を総合して評価する。

【瀬尾】定期試験、出席、レポートを総合して評価する。

## 教 材

【森内】教科書：「疾病と病態生理」（南江堂）ISBN:4-524-40221

【瀬尾】教科書：「疾病と病態生理」（南江堂）ISBN:4-524-40221

参考書：「疾患と薬物治療」（医歯薬出版）ISBN:4-263-20651

## 科 目 名

# 医薬品安全性学 Medicinal Safety Management

4年 通年後期 必修

瀬尾 量 (医療薬剤学研究室)

### 概要・目標

医薬品が臨床で適正に使用されるためには、高度な薬学的資質をもつ医療人としての薬剤師の存在が不可欠である。「クスリ」を逆さに読めば「リスク」となり、薬物療法はまさに「諸刃の剣」であることを十分に理解せねばならない。

過去に生じた薬害を教訓とし、安全で有効な薬物療法の責任を担うべく、有害事象や毒性等に関する知識を身に付ける。また、適切な安全性情報の収集と発信を行う技術を修得することで、今までの事後対応型の対策から予測・予防型の医薬品安全対策へと改善する必要性を学ぶ。

併せて、指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる技能を身につける (C14(4)-9-1)。

### 授業計画

- 1) 薬害からの教訓・薬の安全性を考える (薬剤師は何ができたか)
- 2) 有害事象・有害作用 (薬物依存、発ガン性など)
- 3) 副作用発現に影響する因子 (相互作用など)
- 4) 薬剤耐性 (抗生剤、抗悪性腫瘍薬など)
- 5) 障害誘発薬物・臓器毒性 (毒性とその予測など)
- 6) 急性薬物中毒とその処置
- 7) EBM 手法を用いた安全性情報の読み方・集め方

### 授業方法

講義を中心に、適宜、プリント、パワーポイントを使用する。また、関連の国試問題も適宜、おり混ぜる。

### 評価方法

筆記試験、出席状況、レポート等により総合的に評価する。

### 教 材

プリントを適宜、配布する。

参考書：「医薬品の安全性」長尾 拓 著 (南山堂)、本体¥4,500

「調剤学総論 改訂9版」堀岡正義 著 (南山堂)、本体¥6,800